

# コマツナの品種ラインアップの 特性と栽培の要点

雪印種苗(株)  
園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム 主任  
本多 範久



## 1.はじめに

弊社では秋冬播き品種として「まっちゃん」、夏播き用品種として「浜ちゃん」および「スーちゃん」を発表し、全国の産地において収量性や葉色、在圃性の良さを評価して頂いています。さらに、新しく発売しました秋冬播き品種『あっちゃん』(CM-9)についても、低温期における栽培で葉柄の傷み(はく離)や葉の劣化がなく、葉色、株張り、収量性を評価して頂いています。

今回は、「あっちゃん」(CM-9)、「まっちゃん」、「浜ちゃん」、「スーちゃん」の4品種の特性・栽培のポイントと使い分けについて紹介し、今後の栽培の参考に供したいと思います。

## 2. 秋冬播き品種の紹介

### ●新品種『あっちゃん』(CM-9)の特性

#### 1) 冬期の露地・ハウス栽培に最適!

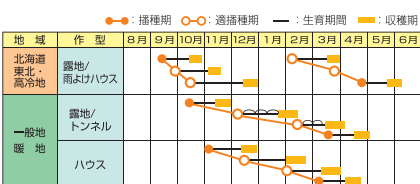
～耐寒性、低温伸張性に優れ、  
濃緑・肉厚の多収穫～

耐寒性があり、低温期でも葉柄のいたみ(はく離)や葉の劣化が少なく品質良好です。低温伸張性に優れ、広葉で株張りが良く収量性に優れます。

#### 2) 晩抽性のため春どりで安心! (図1)

従来の流通品種では、厳寒期(1~2月)播きの春どりの作型で、収穫適期前の抽苔が問題になっていました。本品種は抽苔が遅く、低温伸張性に優れることから、春どりで抽苔の心配が少ないです。

#### 3) 収穫・調整・結束作業が容易な省力種!



▲図1 『あっちゃん』の適応作型

#### ①草姿 (写真1~4)

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本品種は極立性で収穫時の葉の絡まりがなく、折れにくいので収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易で結束の能率が上がります。

#### ②葉形・葉面

やや袴のある長丸葉種です。平滑葉で葉縁の巻き(カップリング)がないため手に絡まず、葉の破れがありません。

#### ③根張り

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が極めて少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

▼写真1 【あっちゃん】濃緑・立性の立毛、葉が揃う(露地栽培:11月播種)



▲写真2 【あっちゃん】濃緑・滑面(トンネル栽培:2月播種)

▼写真3 【あっちゃん】葉揃い良好(ハウス栽培:1月播種)



▲写真4【あっちゃん】草姿のバランス良好で荷姿きれい(ハウス栽培:12月播種)

#### 4) 荷姿がきれい!

葉は濃緑で照りがあり、低温条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉数が多く、莖葉のしまりが良いため、荷姿がきれいです。また、葉肉が厚く、日持ち性が抜群で、根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。

### ●『まっちゃん』(図2)

秋・春期の露地・ハウス栽培に最適!

～耐寒性、低温伸張性に優れ、  
濃緑・肉厚の多収穫～

耐寒性があり、低温伸張性が良好で、広葉で株張りが良く収量性に優れます。気温がやや温暖な時期にも葉柄が伸びにくいので、収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。また、温暖期の節間伸長や胚軸の徒長が少なく倒伏に強いので、株がまっすぐな良品が得られます。

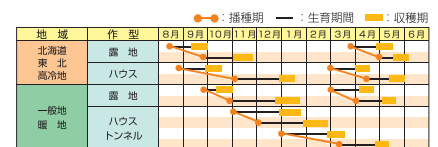
### 『あっちゃん』・『まっちゃん』栽培上の注意点

#### 1) 春・秋播き栽培

①栽植密度は条間15~20cm、株間4~5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

②肥料のやりすぎは、葉身と葉柄のバランスを崩すので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15~20kg、カリ15kgが目安ですが、ハウス栽培ではそれぞれを8~10kg程度に減量します。

③秋播きの病害として、白さび病、べと病



▲図2 『まっちゃん』の適応作型

がみられますが、これらについては殺菌剤散布による予防が大切です。散布にあたっては、低濃度で薬液量を増やし、葉裏まで十分農薬がかかるようにすることが効果的です。

2) 冬播き栽培

① 栽植密度は条間15~20cm、株間3~5cmを基本とします。

② 低温期の栽培となるため、「ハウス」や「トンネル」栽培を基本とします。厳寒期(1~2月)の露地栽培では、低温や霜により発芽が不斉一になりやすく、収量や収穫作業効率を著しく低下させてしまいます。トンネル等で保温を行い、発芽を揃えるよう心掛けてください。また、凍害には強い方ですが、良品を生産する上でも被覆資材の利用が重要になります。

③ 抽苔は遅い方ですが、生育をこじらせると抽苔の危険があるので、必ずハウスやトンネル、不織布を利用して生育をスムーズに進めるよう心掛けてください。

※ 抽苔は低温により花芽分化が起こり、その後の高温長日で抽苔が促進されます。

3. 春夏播き品種の紹介

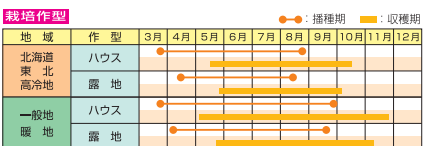
● 『浜ちゃん』 (図3)

1) 高温期の栽培でも生育はじっくり

~ボリュームのある多収穫!~

徒長しやすい高温期の栽培でも、生育がゆるやかで収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。広葉、大葉で葉肉が厚く、葉数が多いので収量が上がります。また、高温時の節間伸長が少なく、株元のきれいな良品が得られます。

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。



▲ 図3 『浜ちゃん』『スーちゃん』の適応作型

● 『スーちゃん』 (図3)

1) 耐暑・耐病性で栽培が容易

~「萎黄病汚染地域」で能力を発揮!~

1987年に発生した「コマツナ萎黄病」は、防除の困難な土壌病害として、東京地区を始めとするコマツナ産地で大きな被害をもたらしました。萎黄病が発生する圃場での5~9月栽培では、何よりも萎黄病に安定して強い品種が望まれます。本種は萎黄病に対して強度の抵抗性を持っており、汚染圃場でも安心して栽培できます。

耐暑性が強く、高温乾燥期でも新葉にアントシアンの発生がありません。高温による葉面の縮みや葉縁の巻きがなく、肉厚でおれにくい品質良好です。夏季の高温期でも節間伸長や胚軸の徒長が極めて少なく倒伏に強いいため、株がまっすぐな良品が得られます。

『浜ちゃん』『スーちゃん』栽培上の注意点

1) 夏播き栽培

① ハウスの栽植密度は条間15~20cm、株間4~5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

② 高温期の肥料のやりすぎは、葉身と葉柄のバランスを崩すので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15~20kg、カリ15kgが目安ですが、ハウスや高温期の栽培ではそれぞれを8~10kg程度に減量します。

③ 高温期になるほどコナガやキシノミハムシの食害が目立ってきます。露地栽培では播種直後から防虫ネット、寒冷紗のべたがけやトンネル被覆を行い、成虫の飛来を防ぎます。防虫ネットはうね幅より少し大きめに被覆し、葉が内側からネットにさわらないようにすること、収穫4~5日前には葉の着色および株を少し硬化させるため、ネットを取り除くことが良品生産につながります。

④ 夏期の栽培では生育期間が短くなり、

農薬時期等によっては農薬残留の恐れもありますので、農薬の散布には十分注意が必要です。散布にあたっては、低濃度で薬液量を増やし、葉裏まで十分農薬がかかるようにすることが効果的です。

⑤ 「浜ちゃん」は萎黄病には比較的強い方ですが、激発地および気象条件によっては発病が見られるので、圃場選定に留意して下さい。

4. 品種の使い分け

周年を通じ栽培される品目なだけに、作付時期ごとの品種選定が非常に大切になります。

○ 冬播き栽培

この時期は、耐寒性、低温伸張性、晩抽性、収量性に優れる『あっちゃん』が適します。低温期の栽培となるため、「ハウス」や「トンネル」を利用して生育を促進させます。

○ 夏播き栽培

「浜ちゃん」、「スーちゃん」ともに春~秋播きの夏コマツナですが、夏場の株張り、収量性は「浜ちゃん」の方が上であり、萎黄病の問題のない圃場でも収穫・調製作業を行いやすい「浜ちゃん」が最適です。萎黄病が発生しやすい圃場では耐暑性・耐病性に優れる「スーちゃん」もご利用下さい。

○ 春・秋播き栽培

初春・晩秋播きには、低温伸張性・耐病性に優れ、結束作業の容易な「まっちゃん」が最適です。また、春・初秋播きのやや温暖な時期の栽培では、生育がじっくりとしている「浜ちゃん」が最適です。

5. むすび

コマツナは、高温期や低温期など時期によって草姿、収量性が異なるため、安定的な栽培をしていく上で、その時期に適した品種を選択していくことが極めて重要になります。今回、ご紹介した品種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。